

わが家の防災ルール

ここ20年間大きな地震はほとんど休日や早朝など家族が一緒の時間帯に発生しました。東日本大震災が発生したのは平日の午後でした。仕事の人、子ども達は学校と、家族がバラバラの時間帯でした。この時の教訓を生かし、どんな状況で地震が起きても大丈夫なように集合場所や連絡方法を家族で確認しておくことが大切です。

お子さんがバスで遠方の学校に通学しているなら、親子がたどりつける方法、幼稚園や保育園などでは一時避難場所をどこにするか父母の方々と話し合い決めておきましょう。

“生きていればいつか必ず会える” 家族で考えよう我が家の防災ルール

家族の防災6つのルール

ルールその1 避難場所、避難ルートを決めておこう。

- この防災情報マップで、指定避難場所や避難ビルを確認しよう。また、自宅からの避難ルートを実際に歩いてみよう。がけの近くや狭い路地、ブロック塀など避難時に危険になる場所などもチェックしておこう。
- チェックした防災情報を防災情報マップに書き込んで「わが家の防災マップ」を作ってみよう。
- もし、災害時に家族が離ればなれになったらどうやって連絡をとり合うかこの防災情報マップを利用して避難場所を決めておこう。

場所によっては災害時に通行止めになることも考えられます。避難先までのルートは3つくらい考えておくとういでしょう。



ルールその2 身を守る方法を知っておこう(6ページの「地震災害に備えて」を参考に)

- とっさの時に身を守る方法を家族みんなでおぼえておこう。
- 家具の多い部屋や家具の少ない部屋など、家の中の危険な場所と安全な場所を確認しておこう。
- 玄関以外の避難口を考えておこう。

災害時は大人も子供も「自分の身は自分で守る」ことが大切です。お子様と一緒に身の守り方を学んでおくとういでしょう。



ルールその3 連絡先、連絡方法を決めておこう

- 家族どうしの電話が繋がらなかった場合に備えて、電話がかけやすい離れた地域の親戚や知人を連絡先として決めておこう。
- 災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話の災害用伝言板の使い方をみんなで確認しておこう。(141頁参照)
- 避難する時には書き置きや張り紙をする方法を決めておこう。
- 祖父母など離れて暮らしている家族とも災害時の連絡方法を話し合っておこう。

携帯電話は非常時に役立つアイテムです。日頃からこまめに充電する習慣をつけておくとういでしょう。また、簡易充電器を用意しておくとういでしょう。



ルールその4 非常用品を準備しておこう(4ページチェックリスト参照)

- 非常時に我が家で必要になるものについて、みんなで話し合ってみよう。
- 非常用品の置き場所や中身を家族みんなで確認しておこう。
- 食品の賞味期限やラジオなどの機器に故障がないか、定期的にチェックしよう。
- 予備の眼鏡や常用薬など個人個人で必要とするものも準備しておこう。

カセットコンロなど普段の生活に使っているもので、災害時にも役立つものを調べておくとういでしょう。



ルールその5 停電に備えておこう

- 懐中電灯は枕元など、すぐに使える場所に置いておこう。
- 予備の電池や携帯電話の充電器などを非常用品に加えておこう。
- 停電しても電話や水道、ガスが使えるかなど、我が家にどんな影響がでるかを確認しておこう。

発電機が一台あると停電時にとっても役立ちます。最近では購入・使用・保管が容易な家庭用カセットガス燃料により、手軽で簡単に扱えるハンディタイプの発電機も登場しています。



ルールその6 防災メモをつくろう(裏表紙参照)

- 避難場所や連絡先など、災害時に必要な情報をまとめましょう。
- 防災メモはコピーをし、財布の中などにに入れておき、家族一人ひとりから日頃から携帯するようにしておくとういでしょう。

日頃よくかける相手も、バッテリー切れなどで携帯電話が使えなくなると、番号を思い出せないことがあります。重要な連絡先は防災メモなどに記入しておきましょう。

